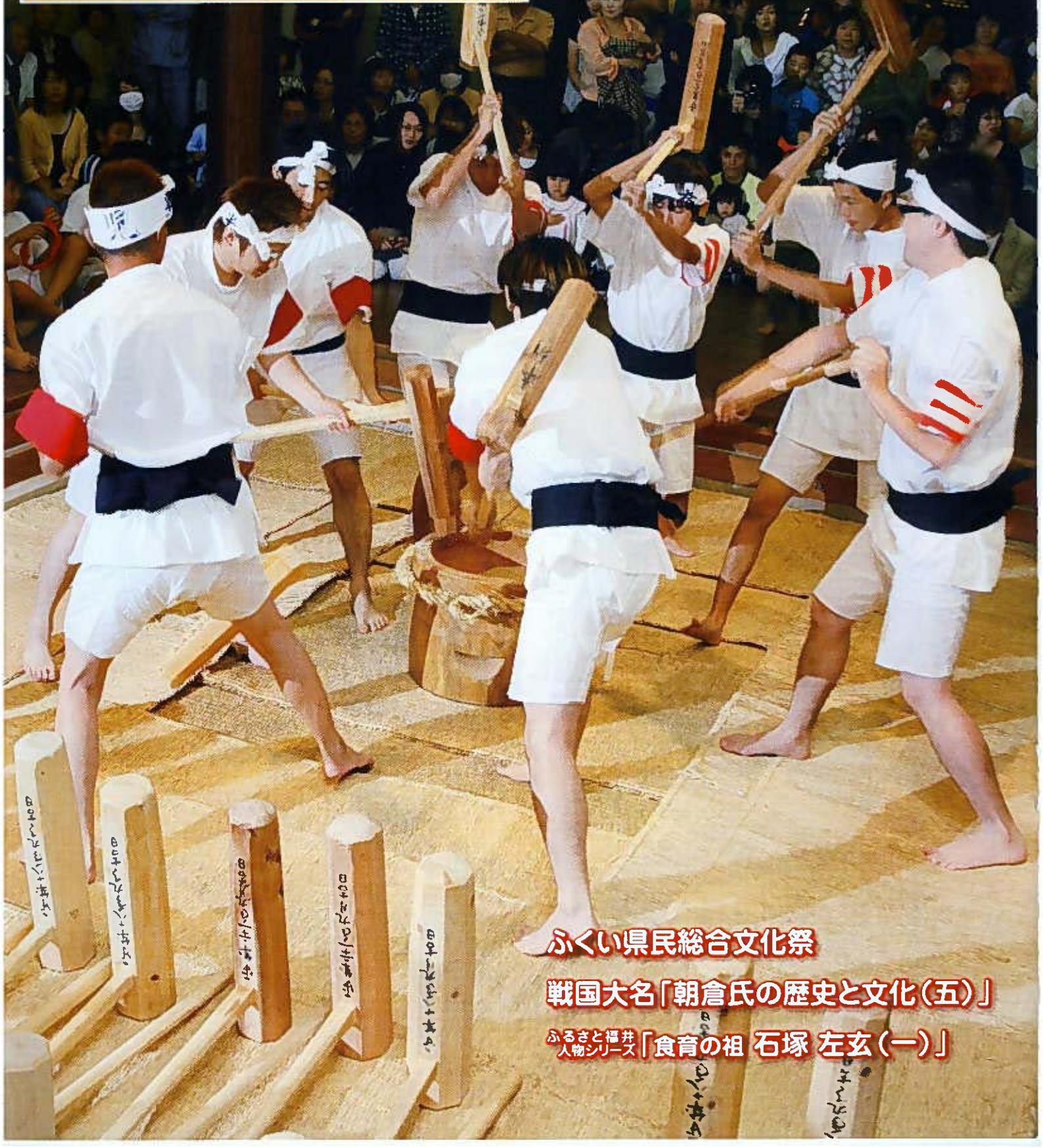


げんでん ふれあい 福井

2009 AUTUMN 第35号



ふくい県民総合文化祭

戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(五)」

ふるさと福井「食育の祖 石塚 左玄(一)」



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的にしています。本誌はこの主旨に従い県民のみなさんとの絆を大切にした広報誌を目指します。

CONTENTS — 35

- ふくい県民総合文化祭 2
- 県高等学校総合文化祭 5
- 戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(五)」 6
- ふるさと福井・人物シリーズ
「食育の祖 石塚 左玄(一)」 8
- ふくいの伝統行事シリーズ
「相撲甚句」敦賀市阿曾 10
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー／29 11
- 福井の文学碑
「詩人・評論家 藤原定」 12
- 若狭路文化研究会
10周年記念フォーラム 13
- 第13回福祉演芸会 13
- 情報ファイル 14

FRONT COVER

「表児の米」

(坂井市丸岡町北横地)



福井県指定
無形民俗文化財

坂井市丸岡町北横地にある布久漏神社に伝わる「表児の米」神事は9月19日盛大に行われました。

この神事は十郷用水の恩恵を受ける流域農民が毎年秋の例祭に感謝と五穀豊穫の志を表す伝統行事。例祭では、その年の初穂を賽米し、米を搗き、蒸してだんごにしたものを作り、それを供え、そのお下がりを参拝者に分け与えたのが原形とされています。

この神事は「おたしよし」「米搗ち」「盤持ち」「越叩き」などがあり、当区では、この行事を後世に伝承するため「表児の米研修会館」を建設し後継者育成に力を入れています。

(詳細は本誌7号参照)

ふくい県民総合文化祭

県内各地でふれあいフェスティバル

第34回福井県吹奏楽TOPコンサート

ふくい県民総合文化祭（当財団協賛）は、平成17年に本県で開催された「第20回国民文化祭・ふくい2005」で結集された成果を一過性のものとならないよう飛躍させ、県民文化の振興につなげようと平成18年度から「ふれいあフェスティバル」として継承して開催されています。

第4回目となる今年度は8月22日から3月13日までの間に36のフェスティバルが順次開催される企画となっています。県下各地で分野別に多くの県民が親しむことができる文化の祭典として繰り広げられています。

これまでに開催されたフェスティバルの一部をご紹介します。

第34回福井県吹奏楽TOPコンサート

福井県吹奏楽連盟主催の「第34回福井県吹奏楽TOPコンサート」が8月23日敦賀市民文化センターで開催されました。このコンサートは県吹奏楽コンサートで優秀な成績を収めた団体の演奏を県民に楽しんでもらうとともに、トップを切って地元敦賀市の中学校4校の合同バンド（栗野・気比・松陵・角鹿）が曲目「となりのトトロ・シリーズ」「ディズニーメドレー」の2曲を力強く演奏。

また一般の部参加の「福井スペシャルウインドオーケストラ」は昨年、サンドーム福井での吹奏楽50周年記念事業「三千人コンサート」の成功を受け、その締めくくりとして年末台湾での演奏会に参加するために結成されたバンドで、今回が初披露となりました。各組とも福井県吹奏楽を担うにふさわしい迫力満点の演奏に1000人の聴衆は惜しみない拍手を送っていました。



福井県立金津高等学校による演奏

「宇野重吉演劇祭2009」が福井県演劇連盟主催のもと、鯖江市文化セ

宇野重吉演劇祭2009

びりつきます。その注文はたった一
つ。

「あなたを食べさせて下さい」！？
不思議な物語が始まります。

演技力のレベルアップを目指し、日
頃の活動の成果を発表する機会に、団
員達は見事に熱演し、会場に集まつた
満席の80人の演劇ファンから盛大な拍
手を受けていました。



熱演する劇団「しあたあ・近松」の団員

ふくい若狭薪能

ふくい若狭薪能が9月21日若狭町の
縄文ロマンパークで開催されました。

若狭町主催で縄文まつりの一環として
開かれたもので今年が初回。

日本の演劇、映画史上重要な存在で
ある宇野重吉氏の没後20年を記念し、
その名を冠して昨年より開催され、今
年が2回目。

福井県演劇連盟の5団体が11月28日
まで響のホール、AOSSA、ハート
ピア春江等、県下各地で5回の公演を
予定。

幕開けとなつた今回は鯖江市に活動
の拠点を置く劇団「しあたあ・近松」。

同劇団は昭和61年に結成、団員は鯖
江市中心の演劇愛好家7人の少人数な
がら地道な活動を続け、本県で開催さ
れた国民文化祭にも出演。

上演された創作劇「注文の少ない料
理店」は、宮沢賢治の「注文の多い料
理店」をモチーフに作られた作品で、
劇団「しあたあ・近松」の23回目の公演。
物語は、自殺しようとした森へ迷い込
だ男が、一軒の奇妙なレストランにた

勝の能「河勝」等が演じられた。



若狭薪能で演じられた「河勝」

若狭地方は民俗伝統芸能が盛んで、
かつて14世紀以降「氣山座」「倉座」
などの専業の芸能者が各地の神社で神
事能を奉納し、最盛期の江戸期には
70ヶ所あまりの神社、能楽堂で演能が
行われたと言われています。新のかが
り火の中、
一流の能楽
師、狂言師

33人で構成
する「能楽
座」が公演。

若狭地方の
狂言「昆布
売り」のあ
と、若狭町

の名跡町民
で縄文博物
館長の梅原
猛さん原作

第19回市町文協芸能祭

第19回市町文協芸能祭

第19回福井県市町文協選抜芸能祭が
9月27日、高浜町文化会館大ホールで
開催されました。

ふくい県民総合文化祭の一環として
毎年持ち回りで開催され、県下17市町
より各文協を代表する芸能部門が参加。

当日は各市町文協より280人が、
邦楽演奏、民謡、太鼓、演劇等の得意
芸能を発表しました。

特に今回は、開催地高浜町と友好都
市の韓国保寧市が参加。韓国国樂協会
保寧支部の6人が伝統音楽「サムドサ
ムルノ」を披露しました。この芸能
祭で外國からの参加は今回が初めて。

フィナーレは地元高浜町文化協会が、
同町佐伎治神社に奉納されている「雨
乞鐘」の伝説をモチーフにした演舞劇
を披露。

この鐘は延元年（1336年）高浜
の海岸に漂着したと言われているもの
で、この鐘を海につけると雨が降ると
いう伝説があり、昭和14年の干ばつに
これを実行したところ、本当に雨が
降ったという出来事を劇にしたもの。

当日は越前町の小学生から大人まで

じられました。

会場には、地元で能の保存研究をし
ている若狭能「倉座」（会員24人）の
82代座長福谷嘉義さんも訪れ、「若狭
町で一流の能が公演されることは大変
すばらしい。これを機会に若い人にも
能に関心を持ってほしい」と話していました。

地元中学生600人を含む1
700人の観客は、古典芸能の精華と
いわれる幽玄の世界「能」を満喫して
いました。

高浜町文協加盟のメンバー中心に裏
方を含め、約80人が参加。

素人ばかりの集団が練習を積み重ね、
この日の大舞台での披露となり、大喝
采を受けました。

会場の約700人の観客は各市町の
能に関心を持つてほしい」と話してい
ました。地元中学生600人を含む1
700人の観客は、古典芸能の精華と
いわれる幽玄の世界「能」を満喫して
いました。

第4回えちぜんマリンバコンサート



高浜町「雨乞鐘」の演舞劇

第4回えちぜんマリンバコンサート
が10月11日越前町朝日多目的ホールで
開かれました。2005年本県で開催
された国民文化祭で越前町が室内樂の
祭典（マリンバ）の開催地となつたこ
とがきっかけ。これは越前町がマリン
バの産地であることが、「マリンバ
による街づくり」をコンセプトに主と
して学校教育を通して、その普及と情
操教育に力を入れているもの。

のメンバーによるマリンバ愛好者の3団体「Meico dic」、「eat o TA」、「朝日マリンバサークル」、「マリンバアンサンブル朝日」による演奏戦するグループもあり、緊張のなかにも素晴らしい演奏を披露しました。又今回のコンサートにはジユニアーバンドで評価の高い「広島ジユニアマリンバアンサンブル」の選抜メンバー13人も参加。同アンサンブルはニューヨークのカーネギーホールでの出演経験もあり、ピートルズの「イエロー・サブマリン」等、リズミカルで躍動感あふれるレベルの高い演奏で聴衆を魅了しました。このほか、国内外で活躍している一流の奏者の演奏もあり、会場に集った約500人の観客は、マリンバの美しい音色に酔いしれ惜しみない拍手を送っていました。

30から11月30日まで、越前市の紙文化博物館で、また10月14日から11月30日までは、卯立の工芸館でも開催されています。



越前町マリンバ愛好団体の演奏

第4回 和紙文化フェスティバル

和紙文化フェスティバルが9月16日

30から11月30日まで、越前市の紙文化博物館で、また10月14日から11月30日までは、卯立の工芸館でも開催されています。
第4回和紙文化フェスティバルが9月16日から11月30日まで、越前市の紙文化博物館で、また10月14日から11月30日までは、卯立の工芸館でも開催されています。

薄くて丈夫で水にも強い越前和紙は、日本で最初の紙幣に使われたり、和紙職人と日本画の巨匠たちとの交流もあつく、持つてきました。

第4回和紙文化フェスティバルとして、現存する世界最古の印刷物である「百万塔陀羅尼」から最新のデジタル印刷の作品まで、和紙に印刷されたものが展示されています。



和紙印刷展を鑑賞する観客

2009ふくい県民総合文化祭 ふれあいフェスティバル参加事業一覧

朝倉文化ふれあいフェスティバル

第39回越前朝倉戦国まつり	8月22日(土)～23日(日)
第34回福井県吹奏楽TOPコンサート	8月23日(日)
平成21年度・第61回福井県音楽コンクール	11月29日(日)
第60回福井県総合美術展	10月10日(土)～18日(日)
宇野重吉演劇祭2009	9月6日(日)～11月28日(土)
和紙文化フェスティバル	9月16日(土)～11月30日(日)
太鼓ふれあいフェスティバル	9月20日(日)
ふくい若狭新能	9月21日(月)～(火)
福井県総合短歌大会	9月27日(日)
福井県川柳大会	9月27日(日)
ふれあい洋舞フェスティバル2009	9月27日(日)
第19回福井県市町文協選抜芸能祭	9月27日(日)
第29回福井県市町文協選抜美術展	10月10日(土)～12日(月)祝
第12回たちまち近松まつり	
第7回立待月　観月のタベ	10月10日(土)～17日(日)
第4回えちぜんマリンバコンサート	10月11日(日)
茶道ふれあいフェスティバル	10月18日(日)
「源氏物語の祭典」第22回源氏物語アカデミー	10月23日(金)～25日(日)
福井県俳句作家協会　総合俳句大会	11月1日(日)
第4回邦楽ふれあいフェスティバル	11月8日(日)
能楽の祭典 第30回福井県各流合同能楽大会	11月8日(日)
木のぬくもりぬくぬくコンサート	11月8日(日)
生活文化体験フェスティバル	11月15日(日)～16日(月)
文学作品まつり	11月20日(金)
華のフェスティバル2009	
「人・花・ふれあいの季」	11月20日(金)～23日(月)祝
'09ふくい詩祭	11月22日(日)
吟詠剣詩舞の祭典	11月23日(月)祝
恐竜文化フェスティバル	11月28日(土)
ふれあい童謡コンサート	11月29日(日)
福井県池田町「能面の祭典」	2月5日(金)～3月2日(火)
マーチングバンド・パントワーリング	
ふれあいフェスティバルピートセッション2010	2月11日(木)祝
第4回福井県合唱ふれあいフェスティバル	2月21日(日)
大正琴の祭典	2月21日(日)
第19回福井県人形劇フェスティバル	3月6日(土)
第4回民謡・民舞・民踊ふれあいフェスティバル	3月7日(日)
美浜を詠う短歌コンクール	3月13日(土)
IT文化フェスティバル	3月13日(土)

第29回 市町文協選抜美術展

10月10日から12日までの3日間、敦賀市・プラザ萬象で開催されました。



市町文協選抜美術展 (敦賀市プラザ萬象)

方回りで毎年開催されています。絵画の部門では、日本画、洋画で果物や風景、人物などを題材に102点の力作が出品されたほか、書道の部では漢詩、篆刻など84点、工芸部門では陶芸、彫刻、能面、水引手芸など56点、写真部門では地元の身近な題材である四季の自然や動物など56点、日頃の美術の修練と研鑽に励んできた成果を発表するとともに、美術爱好者は熱心に作品に見入り、芸術の各作品とも日頃、地域で研鑽を積んだ自信作揃い。鑑賞に訪れた市民や美術爱好者は熱心に作品に見入り、芸術の秋を満喫し楽しんでいました。

財団では分野別フェスティバルに参加する団体の技能向上のため、助成制度を設けており、平成21年度は6団体に助成しました。

福井県 高等学校

総合文化祭開催

光る個性、若い感性で文化の祭典

第20回福井県高等学校総合文化祭（当財団協賛）が「輝け 文化の夢工

演劇祭を最初に15部門にわたり、日頃からの練習の成果を披露し、交流を深める場として、平成22年2月17日まで県下各地で繰り広げられます。

これまでに開催された「高校演劇祭」「美術・工芸、書道、写真展」「定期制通信制連合文化祭」をご紹介します。



啓新高校による演劇

書道、写真展」および「特別支援学校作品展」が10月1日から4日までの4日間、4部門で若い感性と個性ある作品約940点が県立美術館で展示されました。この展示会での優秀作品の高校生は来年8月宮崎県で開催される全国高等学校総合文化祭の出展者（各部門5・6人が選考）として、作品の創

美術・工芸、書道、写真展 特別支援学校作品展

なか、中味の濃い作品が次々に上演され、出演の高校生達は、夏休み返上で稽古に励んだ成果を、若いエネルギーと熱のこもった演技で披露し、観客から盛大な拍手を受けていました。

高校演劇祭

高校演劇祭が9月18日から21日まで
の4日間坂井市のハートピア春江で開
催され、県下18校が参加し日頃の練習

演劇祭を最初に15部門にわたり、日頃からの練習の成果を披露し、交流を深める場として、平成22年2月17日まで県下各地で繰り広げられます。

これまでに開催された「高校演劇祭」「美術・工芸、書道、写真展」「定期制通信制連合文化祭」をご紹介します。

の成果の発表と、演劇祭での交流を通して演技力の向上を目指しました。

作に入る。美術・工芸部門は具像画、抽象画、立体的な造形作品など30校から397点の作品が展示。書道部門では27校から220点の力作が展示。最近の傾向としては作品の大型化が特色で古典臨書の作品が目立ちました。写真部門は14校79点の作品が展示。モノクロ作品では、陰影を利用した印象的な作品が多く力作揃い。特別支援学校



作品に見入る高校生

定时制通信制連合文化祭

部門は具像画、作品など3校が示。書道部門で力作が展示。最初の大型化が特色立ちました。写真が展示。モノを利用した印象的特別支援学校作品展は11校240点の大作や共同作品の意欲作を展示。会場に訪れた多くの入場者は、若々しい感性豊かな作品を鑑賞していました。



生活体験を発表する生徒

5

朝倉氏の歴史と文化(五)

卷之三

一乘谷朝倉氏遺跡

大清不遺俗



青木 豊昭 氏
Tomoaki Aoki

1944年、福井県生まれ。福井大学教育学部卒業。福井県立博物館学芸課長、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター次長、同所長。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館館長を経て現在、同館特別顧問。著書『越前若狭地域歴史の謎に挑む』(2006.8.1刊)。共著『日本城郭大系11』『縊体天皇の謎に挑む』『福井県史通史編—原始・古代』『鯖江市史通史編上』『前方後円墳集成中部編』『縊体大王と越の国』『福井県不思議事典』他。

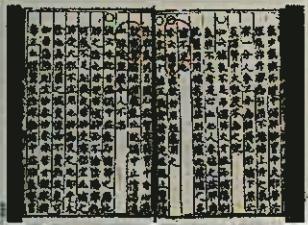
(4) 遺物は語る
これまでの発掘調査によつて約160万点の各種の遺物が出土した。これらは戦国城下町の各遺跡・各遺構を生き生きと物語る上で重要な役割を果たしている。正に「一乗谷朝倉氏遺跡が「実像の見える戦国城下町遺跡」と称され るゆえんである。

そのため、出土遺物の約2、343点が国指定の重要文化財に指定されていふ。

遺物は、**化粧具**、**調理具**、**器具**、**建築関係資料**、**武器**、**武具**、**文房具**、**文字資料**、**遊戯具**と**呪具**、**茶の湯**、**生花**、**聞香**、**猿楽**など芸能関係資料、**座敷飾**、**照明**と**暖房具**、**神仏具**、**貨幣**、その他などに大きく分類できる。
いじだは特に貴重な資料について語る必要とする。

①出土文字資料

朝倉館出土の木簡 永禄3年から10年の年月日が記された木簡出土している。「御屋方様」「少将」などがあり前者は五代当主朝倉義景を、後者は義景の最後の妻小少将に比定され、一緒に義景館でくらしたこともあったことがわかる。



湯液本草(版本)

少前者は中・近世に広く用いられた往復書簡の形式をとった例文集で、民衆教育の教材として使用された。この写本は一字一字丁寧に写されていて、またいくつかの文字について、その訓みを小さな紙を切り張りして付けていて、手の込んだもので、所有者が大切にし、真剣に取り組んでいたことがわかる。

と [湯液本草] の写本 いずれも本の燃え残りであるが、書名が明らかになつた貴重な例である。



御屋形様

明の熊宗立が刊行した医学叢書『東垣十書』に收められて広く知られている本である。一乗谷の『湯液本草』もこの明の刊本をもとにして写したもので、他の出土品などから「医者の屋敷」からの出土と判明している。医者の勉強法がわかる。



ガラス種鉢



イスラムカラス

から明らかになつた。朝倉氏がいち早く火縄銃を取り入れていたことがわかつる。

うでごとく。
戦国時代のシルクロードは船を利用した南海ルートで、これを別名「海のシルクロード」と呼んでいる。この2点のガラス製品は一乗谷が海のシルクロードの終着駅であったことを物語っている。

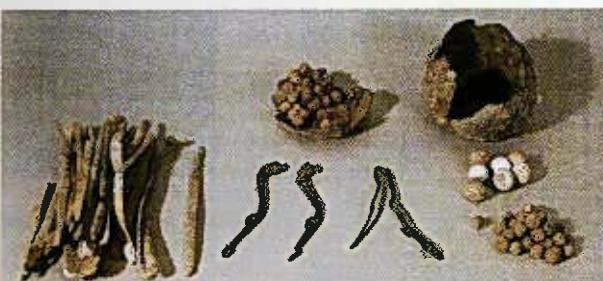
その他、タイ、中国名産地、朝鮮の陶磁器も数多くわが国に輸入されたが遺跡からも数多く出土している。

（これらは皆、『世界のロード』によるもの）

戦国時代のシルクロードは船を利用した「南海ルート」で、これを別名「海のシルクロード」と呼んでいた。この二点のガラス製品は、一乗谷が海のシルクロードの終着駅であったことを物語ついている。

この他、タイ、中国各产地、朝鮮の陶磁器も数多くわが国に輸入されたが遺跡からも数多く出土している。

一乗谷に鉄砲鍛冶がいたことが、遺跡出土の坩堝や多量の弾丸、そして弾丸の原料となる鉛の地金・火挿みなど



火繩、綫部品、彈丸、鉛地金等

171発があつたことを考へると22匁5分銃が多用されたことがわかる。

また、棒状の鉛地金は束になって出土したが、重さが3・75キログラムあり、一貫目が流通の単位であつたようである。

④輸入銭と蛭藻金

当時、わが国で流通していた銭の99%は中国から輸入されたもので、これにごく少量の朝鮮や琉球・ベトナムなどの銭や国内産の皇朝十二銭や模鋳銭がある。遺跡からは85種、約2万7千枚程の銭が出土している。

ある武家屋敷では建物の床下に設けられた遺構より3千7百枚余が緒銭の状態で出土していて、銭の備蓄形態の一例を知ることができる。

また、ある井戸では織田勢の天正元年越前侵攻に対し、備蓄の銭(一万六千五百枚近く)を急いで、甕ごと井戸底へ隠している。

出土銅銭



うことができる。

一方、遺跡内で偶然工事中、越前朝倉蛭藻金(21・53グラム)が一枚無傷で発掘されている。5匁7分あり、普通一枚(一両)、4匁ないし4匁4分といわれているが、朝倉蛭藻金は6匁近くあり、注目されている。また、東太郎丸遺跡(坂井市春江町東太郎丸)から越前朝倉蛭藻金の切り使いされた端部片(1・95グラム=約5分)が発掘されている。

朝倉氏の領内においても、商用として蛭藻金が流通していたことがわかる。戦国時代、蛭藻金は商用の他に、賞賜用、蓄財用、贈答用、供獻用、軍用、祭祀用などなど、多用されるようになったことが古文書や古文献などからもうかがえる。

⑤朝倉駒

遺跡からこれまでに178枚の将棋の駒が出土している。今なお、一遺跡からの出土数としては日本最多を誇る。「玉将」や「王将」もあり、「醉象」。



将棋の駒

子」は1点だけ出土している。

普通、味方の王将が取られれば負けるが、相手の陣地に入つて、醉象が太子になつていればまだ勝負を続けられるというのである。天文から永禄

年間頃に醉象の駒が除かれ現在の将棋になつたと考えられている。戦国の人々も余暇に将棋をして楽しんだことがわかる。

⑥食膳に上がった魚、貝、鳥獸類これまでに出土した魚骨・貝殻・鳥獸骨を専門家に鑑定してもらった結果、城下町の人々が次のようなものを食していたことが明らかになった。今も変わらぬ越前の海、山野の幸である。

朝倉氏の領内においても、商用として蛭藻金が流通していたことがわかる。戦国時代、蛭藻金は商用の他に、賞賜用、蓄財用、贈答用、供獻用、軍用、祭祀用などなど、多用されるようになつたことが古文書や古文献などからもうかがえる。

貝

アカニシなどの巻貝・マガキ・ハマグリ・コタマガイ・アサリ

魚

サメ類・コイ・マダラ・スズキ・マダイ・ブリ・ホウボウ・フグ類・カレイ類



出土した貝・魚・鳥・獸骨

鳥類 力毛類・ヒシクイ・ガン類
獣類 ニホンジカ・イルカ類

⑤朝倉氏が一乗谷に本拠を構えた理由
通説では朝倉孝景が国主になつて、本拠を一乗谷に構えたとなつてゐるが、最近の研究成果では初代広景の子、高景が越前ヶ所の地頭職を得たことを契機に黒丸から一乗谷に本拠を移したこととする説が多い。そうとすれば朝倉氏は200年余にわたつて一乗谷に本拠を置いたことになる。國主になつては100年余である。

本拠を置いた理由は次の事が考えられる。
①越前国のほぼ中央に位置していること
②一乗谷は宇坂庄に含まれ、古くから朝倉氏の支配下にあつたこと
③阿波賀に古くから市場があり賑わっていたこと
④水陸の交通の便に恵まれていたこと
⑤谷間にあり防衛に適していたこと
⑥足羽川の用水の取水口を押える位置に近いことなど

五 おわりに

昨年から今年にかけて、全国植樹祭の会場となる一乗谷朝倉氏遺跡と遺跡をのこした戦国大名朝倉氏の歴史と文化を多くの方々に知つていただくため5回シリーズで執筆した。

今年、6月7日の全国植樹祭によつて遺跡は全国に報道され、周知された。誠にありがたいことである。「百聞は一見に如かず」で、ぜひ天下一の戦国下町遺跡——一乗谷——への来遊を心からお待ちしています。

ふるさと福井人物シリーズ

食育の祖 石塚左吉(一)

文／岩佐勢市

筆者プロフィール



岩佐 勢市氏
Seiichi Iwasa

1994年福井市に生まれる。鳥取大学卒業。JA経済連・JA厚生連に奉職。2007年からJA福井県厚生連理事長。職務の関係から住民健康管理のうえで、特に子供の食育に注目。現代の子供達の食生活の乱れを憂う。自らもスマートフォードの研鑽ならびに、福井市生まれで食育の祖と言われる石塚左玄の研究を進め、業績の紹介とともに、食育の重要性の啓蒙と、食と運動による健康づくりを提案している。石塚左玄の業績に詳しい。

福井藩で医学を学ぶ

常を左玄は「綱常殿は私の生涯の大恩人である」と言っています。綱常は明治の医学発展の功労者の最たる人物ですが、左玄の後ろ立てとなり常に支援をしています。

左玄は慶応3年（1867）には福井藩の医学所にて医師の勉強をしていました。

江戸時代から明治に変わった元年に
は福井藩医学校雇いとなり、明治2年
7月には読試補となっています。その

後藩病院にて薬剤師としての調合方勤務や、医師としての診察方の勤務をしています。当時福井藩の雇いとしてア

メリカから福井に来て化学や語学等を教えていたグリフィスが廃藩置県により福井を去り、南交の教授となつて上

京しました。それまでに左玄は脛には病院で働き夜はグリフィスを訪ねて保建ちました。そこを次の二つになります。

健学や化学を教わっています。その恩師が福井を去ることを知った左玄はグリフィスの後を追うように（実際は左

玄が先に上京) 東京へ出て、グリフィスが南校の教授になると左玄はグリ

教育の祖
教育基本法生みの親

—ふるさと人物シリーズ』第7弾として、明治時代に活躍した福井生まれの食育の祖と呼ばれている石塚左玄を取り上げました。JA県厚生連理事長であり左玄の業績や食育の研究に詳しい岩佐勢市氏に執筆をお願いしました。

(第四編集部)

教育の社 食育基本法生みの親

明治はまさに文明開化の世、全てが洋風化を目指している中、従来の食生活までもが否定され洋風化になりつつある時に食育の祖石塚左玄は日本で初めて「食育」なる言葉を本に書いて「食育」と「食」の重要性を提言しました。教育こそ子供にとって全ての教育の根



26 歳の石塚左玄

育は家庭教育であり、その事が心身の健康をつくる」と主張し、又左玄は「日本人には日本人にあつた食生活がある。地域の農産物・海産物が地域に住む人の食になり、地域に住む人の心と身体を作り養ってきた。だから地域に住む人は地域の農産物・海産物を食する事が自然で、身体に優しくより健康的で、地域には地域に特有の食生活が大事である。」と風土食論を諭しました。

幹であり、「食育」は親が家庭で行う最優先事項であると説きました。「食育」なる言葉を本に用い、食の大切さを説き、石塚食療所という診療所を開設して食の実践指導を行い、食で悩んでいる現代社会に十分に示唆し答えるを与えてくれているからこそ石塚左玄は食育の祖と称されました。左玄の食育・食養論をとり入れて制定された食育基本法生みの親が福井で生まれたのです。福井で医師と薬剤師の勉学をし

生誕地は福井

嘉水	四年	(一八五一)
明治	三年	(一八六七)
慶應	四年	(一八六八)
明治	七年	(一八七四)
明治	十年	(一八七七)
明治	二八年	(一八七八)
明治	二九年	(一八七八)
明治	三十一年	(一八八九)
明治四十年	一	一
明治四十二年	一	一
明治四十三年	九	九
明治四十四年	零	零
明治四十五年	九	九
明治四十六年	七	七

【化学的食養長寿法】発表
石塚食療所開設
「食物養生法」を発刊
食養公苑足 左玄が顧問
58歳尿毒症で死亡

福井市子安町で財政余裕の長男として誕生。福井藩医学所に通学。泉病院 診察方調合方 勤務。グリフィスに学ぶ(給録20俵)陸軍軍医試補となる。結婚。西南戦争従軍。日清戦争従軍。

末宮辨診御用を勤めた橋本綱
子教授、初代日本赤十字病
院院長の弟である。

町（現在の宝永4丁目付近）を輔の長男（母は由留）とした。生まれた時代は、折よりした。歴史が大きく変わらざる中で、家に近い幕末の志士橋本左内獄で刑死するのは左玄誕生

この地は福井

ノイスの助手として働いています。その後文部省医務局（東京大学医学部）にお雇い教師のマルチン教授の下で助教をしました。明治7年23歳の時陸軍軍医として採用されて、ようやく本格的な生活の糧を得ることになり結婚します。明治10年には西南戦争に従軍し熊本・長崎の軍団病院で薬剤官として働きました。明治28年には日清戦争と朝鮮半島に従軍をしています。しかし明治29年に陸軍少将薬剤監の予備役となり、陸軍を退職しました。陸軍薬剤師では少将が最高の職位です。退職したのは、自身が若年時からアラブ病と言われる皮膚病に患つており、この病気は大人になつても治らない頑固な搔痒を伴い腎臓も患う等軍医でありますながら患者でもあり、入退院を繰り返す軍医の職務を全う出来なくなつたからです。

『教育』を初めて活字に

そして明治40年に多くの賛同者の下に食養会が発足し、左玄はその顧問になります。

機関誌の中で左玄は「人生最大の基礎たる生命及び精神たるところは、食をおろそかにおいては原因を発見する能はず。一身一家の健全を計りて正食的人格を成育し、幾許か国家の為貢献する」と書いています。尚この定期雑誌は幾つかの変遷を経て名前も変わりましたが、今も連綿と続いていますし、左玄の思想は今も民間に多くの支持者を抱えて、マクロビオティックとして世界に伝わっています。

食医として大活躍

フイズの助手として働いています。その後文部省医務局（東京大学医学部）でお雇い教師のマルチン教授の下で助手をしました。明治7年23歳の時陸軍軍医として採用されて、ようやく本格的な生活の糧を得ることになり結婚します。明治10年には西南戦争に従軍して熊本・長崎の軍団病院で薬剤官として働きました。明治28年には日清戦争で朝鮮半島に従軍をしています。しかし明治29年に陸軍少将薬剤監の予備役となり、陸軍を退職しました。陸軍薬剤師では少将が最高の職位です。退職したのは、彼自身が若年時からヘンケル病と言われる皮膚病に患つておらず、この病気は大人になつても治らない頑固な搔痒を伴い腎臓も患う等軍医であります。ながら患者でもあり、入退院を繰り返し軍医の職務を全う出来なくなつたからです。



明治 31 年「食物叢生活」

しかしその左
玄も明治42年10
月17日に尿毒
症のために58歳
で永眠しました。
当時多くの患者
達に見送られて、
浅草の浄土宗光明寺に葬られま
した。そこで彼は静かに眠っています
が直ぐにでも起きて乱れた食生活に一
喝をしたいと考えているでしょう。本
年は左玄死後満100年の記念すべき
節目の年でもあります。58歳の寿命は
食を重んじた左玄としてはあまりに、
短か過ぎるのではないかとの質問を受けます
確かに現代社会の平均寿命は男性で79
歳となっており、58歳は短すぎる数字
となります。しかし生まれながらのヘ
ブリ病で病んでおり、腎臓病も患つて
いました。病気が彼の命を縮めたので
すが、しかし左玄は病気であつたから
こそ食を大事にし、健康と食について
考え実践し、食の力・食の美・食の誠
を追求し続け、食は命なりの思想で正
しい食生活の重要性を国民に知らせし
めようと彼の人生を捧げました。

出自は大野市阪谷地区

そもそも石塚家は大野市萩ヶ野（阪谷地区）にあり急峻な地区的開墾開発を進め地区の有力者となり、同時に漢方医としても慕われていたようです。歴代「藤兵衛」を名乗っていて、天保2年に73歳で亡くなつた藤兵衛（①）の夫婦墓（写真）が萩ヶ野にひつそりと建っています。幾多の変遷後明治14

左衛門 —— 卵一郎 —— 藤兵衛 —— 藤兵衛⁽²⁾

藤兵衛 (②) (天保10年～明治37年)は始めての県会議員にも選出されていましたがこの藤兵衛は農業、酒造業や鉱山業等幅広い分野で活躍をした素封家で地区の実力者でもあったようです。一方藤兵衛 (①) の弟泰庵が福井の春山下町 (現在の春山1丁目付近)に江戸末期大野市萩ヶ野から分家して医業を始めています。この分家した泰庵には一人の子供があり長兄も通称泰庵 (③)と書いて医業を継いでいます。しかし石塚家は長兄が生涯独身をとおしたため10歳下の弟泰輔の長男左玄があとを継ぎ食育の祖となつたのです。(以下 続く)

(※1) 精物食動物論
人間は歯の形や歯の動きなどから雜食でも草食でも肉食でもなく、穀物を中心として食べる動物であり、人は穀物食動物であると考えました。本の中では穀物食動物論を最初に述べている。

(※2) 精物食動物論

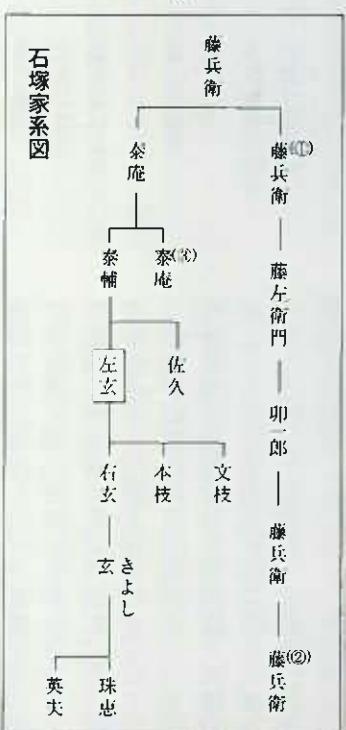


石塚藤兵衛の墓（太野市）

は長兄が生涯独身をとおしたため10歳下の弟泰輔の長男左玄があとを継ぎ食育の祖となつたのです。(以下 続く)

(※1) 夫婦アルカリ論
栄養を吸収するために、ミネラルのNaとKが重要な役割を果たしていると左玄は考えました。そのNaとKは人間の夫婦の如く助け合つて栄養吸収の働きがあるので、この事を夫婦アルカリ論と自ら名付けました。

(※2) 細物食動物論
人間は歯の形や歯の動きなどから雜食でも草食でも肉食でもなく、細物を主として食べる動物であり、人は細物食動物であると考えました。本の中では細物食動物論を最初に述べている。



(※1) 夫婦アルカリ論
栄養を吸収するために、ミネラルのNaとKが重要な役割を果たしていると左玄は考えました。そのNaとKは人間の夫婦の如く助け合って栄養吸収の働きがあるので、この事を夫婦アルカリ論と自ら名付けました。

ふくいの 伝統行事

福井県指定無形民俗文化財 「相撲甚句」

敦賀市

奉納相撲



相撲甚句による相撲踊り

さわやかな秋晴れとなつた9月20日敦賀市阿曽の「利根八幡神社」秋季例大祭に奉納相撲が行われ、福井県指定無形民俗文化財の「相撲甚句」にあわせて、相撲踊りが奉納されました。

納相撲、相撲甚句踊りが盛んとなつたのは、江戸時代の領主鞠山藩の奨励によるもので、元禄時代には化粧まわしを着用するようになつたと言われています。

昔は近郷の村々や、敦賀、西浦からも、この相撲を楽しみに、力自慢の力士が多く集まって盛大な相撲が行われたと伝えられています。

相撲甚句行事

敦賀市阿曽は東浦地区のほぼ中央にあたり、79戸の集落です。その集落にある「利根八幡神社」の秋祭りには、豊作感謝と祖先への感謝の行事として、宮相撲が奉納されます。記録としては残されたものが無く、起源は定かではありませんが、その奉納相撲の歴史は古く、鎌倉時代から行われてきたと伝えられています。この奉



子供相撲

祭りの当日、9月20日利根八幡神社の境内に作られた土俵で午後2時より奉納相撲が行われました。

阿曽区民はじめ地区外からの見物人多数が見守る中、前相撲として子供相撲が行われました。阿曽の小・中学生7人に近隣の横浜・杉津等から合計13人が参加。子供相撲は特にお年寄りや、親に人気があり、その可愛いしぐさに観客は笑顔で見守りました。

立上り、「ヨ
オー」と
力強い掛け声で土俵入りが
終ります。
このあと音頭取りによる

相撲甚句が歌われ、力士達は土俵を回りながら踊りが始まりました。この相撲甚句には大踊り（緩やかなテンポ）と小踊り（少し急なテンポ）があり大踊りから、小踊りへと変わっていきます。



化粧まわしをつけた力士の入場

相撲甚句の保存

阿曽地区の相撲甚句行事は、古い歴史を持つますが、それを支える基础设施となる地域共同体も時代とともに大きく変化。行事の担い手であった青年団に代わり現在は、地区全体で伝統行事を大事に継承しています。

祭の主役である力士は阿曽地区のみでは足りず、敦賀相撲協会から毎年5・6人の力士がこの伝統行事に参加応援しているほか、将来行事を受け継ぐ子供達に関心を持つてもらつたため子供相撲に取組み、その育成に力を入れています。「阿曽相撲甚句保存会」の山口保定さんは「この伝統ある行事の保存には、区民全体の理解と、将来の担い手である子供達に教えていく事が大事」とし、その保存への意気込みを話してくれました。

「大踊り音頭」「小踊り音頭」

そろたそろたよ
ああー
田舎そだちの
やぶうぐいすが
花の都へ
とんできて
宿はなし
西をむいても
宿はなし
梅の小枝を
宿として
ほほほけきよ

角力とるなら
名のりをあげて
ごへいを
かついで
かえらんせ
やぐら太鼓に
バチおと聞けば
今日は初日だ
負けやせぬよ

立ち上がり
「ヨ
オー」と
力強い掛け声で土俵入りが
終ります。
このあと音頭取りによる

現在伝わっている歌詞は明治初期以降のもので歌詞は約40程残つており、当日は3人の音頭取りにより20程が歌われました。

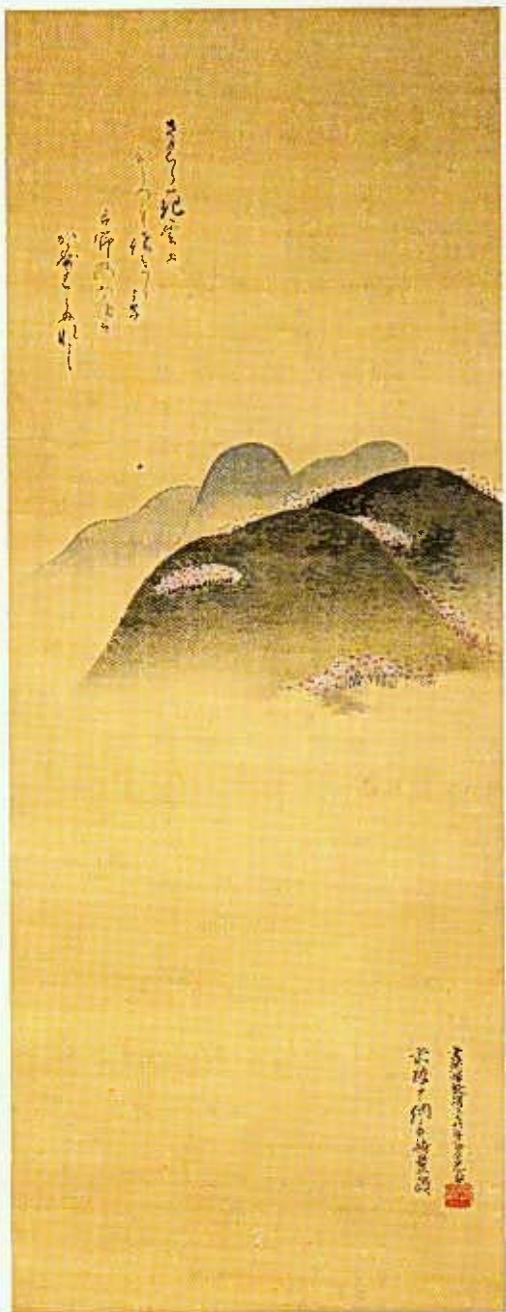
相撲甚句のあと三役相撲がとられ奉納相撲は終了となり、このあと力めし（おにぎり）が配られました。これは集落から集められた今年の新米で特に妊婦に縁起の良いものと言われています。観客は昔ながらの厳肅なかでの力強い奉納相撲神事を、心行くまで楽しみ盛大な拍手を送っていました。



大人による宮相撲



山は赤葉を観
けりとし伊勢
松田山も紅葉や



かくら花雲もひとつに
吉野のやまは かすむともなし

と詠い、対する左幅には紅葉の名所として名高い龍田山の景と共に、
いて染し 锦なる観

吉野・龍田図 二幅
土佐光貞筆

- 絹本着色 縹98.5×横37.4cm
- 江戸中期
- 贊 芝山持豊
- 落款 (名)画所預従四位上土佐守藤原光貞
- (名)前権中納言持豊贊
- 印章 (名)「光貞之印」白文方印

ふり龍田山 木々の紅葉や

の和歌が添えられています。

日本では、古くから四季の景色が愛でられてきましたが、中世末期になると四季にこだわらず一季の景物をとりあげて楽しむようになり、近世に入ると春と秋、夏と冬といつた異常に、異なる季節を対比させる傾向となりました。とくに吉野と龍田の春秋を代表する歌枕の地は、古くから和歌に詠まれた馴染み深い景として、大変好まれました。

また、雲のごとき桜と、錦のごとき紅葉は、あわせて雲錦と称されましたが、本図はこの雲錦を詠み込んだ和歌が添えられ、和趣へのささやかな共感を誘っています。

筆者の土佐光貞は、元文三年（一七三八）に画所預土佐光芳の次男として出生。宝暦四年（一七五四）画所預となり従六位上、内匠大属に叙任。明和元年（一七六四）左近衛将監に任せられ、安永四年（一七七五）三十八歳、従五位上、土佐守に叙任。天明二年（一七八二）四十五歳、叙正五位下。寛政四年（一七九二）五十五歳、叙從四位下。文化三年（一八〇六）六十九歳没。

右幅には、桜の名所として知られる吉野の景を配し、

さくら花雲もひとつに

吉野のやまは

かすむともなし

と詠い、対する左幅には紅葉の名所として名高い龍田山の景と共に、

いて染し 锦なる観

福井の文学碑 詩人・評論家 藤原定



藤原定詩碑

海
海は荒れているのではない
海は怒つてなんかいない
さかんに白牡丹の花を
咲かせては散らし
花弁をたべているのだ
永遠なものはそんなふうに
夢の中遊ぶのが好きなのだ

詩人・評論家、藤原定（1905～1990）の詩碑があります。

詩集「吸景」に収められた長編詩「海」の一連が刻まれています。
平成4年（1992年）10月25日、地元敦賀市を中心に県内外の詩人、文化人で組織された藤原定の詩碑を建てる会（事務局・長田昌平氏）によって、建立され、除幕式が行われました。

敦賀市手の浦の海岸に、敦賀市出身、詩人・評論家、藤原定（1905～1990）の詩碑は、敦賀湾を挟んで対岸の敦賀市東浦で採れた「阿曽石」の自然石4個を組み合わせたもので、総高は1.45mあります。碑に刻まれた詩文は書家の典子夫人の揮毫で、署名の部分は自筆を写刻しています。親戚に当たる民宿、北上旅館の敷地内にあり、波静かな敦賀湾を望むたちで、設置されています。「北陸の深い青を湛えた海、そして冬の降り続く雪が私を詩人たちにしましたのだ」と古里敦賀の風土をこよなく愛し、詩人・評論家としてめざましく活躍された藤原氏の人柄と業績をしのぶにふさわしい詩碑となっています。

藤原定は明治38年（1905年）、敦賀市相生町（旧敦賀郡敦賀町富貴）生まれ。敦賀商業を経て、法政大学文学部哲学科を卒業しました。在学中から詩や短編小説を倉田百三

詩を書くことは死を学ぶこと

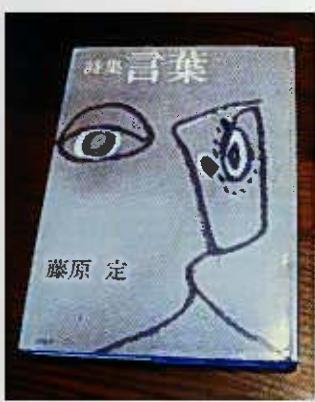


藤原定氏全詩集(沖積舎刊)より転載

が編集発行している雑誌「生活者」に掲載され、注目されました。昭和8年（1933年）に評論「不安の文学」を発表し、論争を呼びました。昭和11年に草野心平の勧めで詩誌「歴程」同人に加わり、翌年10月から満鉄に勤務（1969年）まで法政大学教授を務めました。その間、昭和29年第二詩集「距離」、次いで「ぼくはいるぼくはない」（昭和39年）「吸景」（同49年）、第五詩集「環」（同54年）では第13回日本诗人クラブ賞を受賞。

第六詩集として「言葉」（平成元年）を発刊。翌平成2年4月、この詩集で第8回現代詩人賞を受賞しました。終戦後、昭和21年4月に無事帰国。同9月に母校の法政大学講師に奉職。昭和23年（1948年）から同44年（1969年）まで法政大学教授を務めました。その間、昭和29年第二詩集「距離」、次いで「ぼくはいるぼくはない」（昭和39年）「吸景」（同49年）、第五詩集「環」（同54年）では第13回日本诗人クラブ賞を受賞。

詩人として輝かしい業績は、ついに何かを整理しておきたいような、はつきりさせておきたい気持ちに駆られる、と私は述べたことがあるが、私の心懐もそれに似たものであるかも知れぬ」と記しています。この第一詩集は何人にも目前に死が避けて通れなかつた戦時下の覚悟のようなものが秘められた重い一冊となっています。

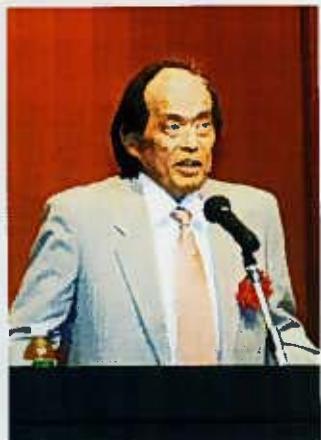


詩集「言葉」表紙・装画は小野忠弘

三部構成で、一部と二部が大陸の風景と暮らした素材を求めており、三部が上京（大正14年）してから大陸に渡るまでの東京生活12年の詩作が収めています。この詩集のあとがきに当たる「自跋」（じばく）に「詩を書くことは死を学ぶことだ」と思っている。恋愛を間近にひかえた人が、それが何であるか言い

若狭路文化研究会 10周年記念 第4回フォーラム
『若狭路の民話—三方郡編』の民俗世界

「若狭路の民話—三方郡編」の民俗世界」と題し基調講演やパネルディスカッションが10月4日若狭町のパレア若狭で開催されました。



田中文雅教授の「基調講演」

これは若狭の民俗文化を保存継承することを目的に、平成11年発足した「若狭路文化研究会」の第4回フォーラムでの10周年記念行事。この「若狭路の民話—三方郡編」は就実大学の田中文雅教授が旧三方郡において平成9年9月から19年9月までの10年間に16回、平均三十数人の学生とともに現地調査。美浜町では延べ378人より聞き取り調査を行い、分類整理した約1500の民話から200の民話が収録されています。

当時のフォーラムでは田中教授の「語り、聞き、記録することの意義—若狭・民話調査の10年」と題して基調講演があり、「現在は、昔のように囲炉裏のもとで夜なべ仕事も無く、年寄りから話を聞く機会も少く、民話を支える場が崩壊している」と採話が難しい

均30人程度の学生とともに現地調査。美浜町では延べ378人より聞き取り調査を行い、分類整理した約1500の民話から200の民話が収録されています。

当時のフォーラムでは田中教授の「語り、聞き、記録することの意義—若狭・民話調査の10年」と題して基調講演があり、「現在は、昔のように囲炉裏のもとで夜なべ仕事も無く、年寄りから話を聞く機会も少く、民話を支える場が崩壊している」と採話が難しい



パネルディスカッション

この後、地元美浜町「めめたんごの会」の山口万喜さんが「河童の詫び証文」若狭町「三方民話の会」の中西みや子さんが「大名列・梅丈の角兵衛狸」を地元の方言でわかりやすく民話を朗読しました。

パネルディスカッションでは若狭路文化研究会の金田久璋会長の司会で田中教授をはじめ3人のパネリストが「若狭路の民話」について活発な議論がありました。長い歴史と伝統にはぐくまれた若狭の文化や民俗を学ぶうえで、今回のフォーラムは大変興味深い話が多く、会場の聴衆は終始熱心に聞き入り、メモを取っていました。



太神楽曲芸の豊来家一輝さん

10/8 (木)	10/7 (水)	10/6 (火)
ホーム 金津サン 雲雀ヶ丘寮	さくら荘 松岡 アース ホーム小浜 サン・サン	眞盛苑
14時～ あわら市	10時～ あわら市	14時20分～ 勝山市 小浜市 敦賀市



一緒に歌う林田麻友子さん

第13回 福祉演芸会巡回開催

太神楽曲芸 豊来家一輝 歌謡曲 林田麻友子

当財団では、人に優しいふれあい活動事業として10月6日から8日までの3日間、県内の福祉施設（別表）を巡回訪問して福祉演芸会を開催しました。

今回は太神楽曲芸の豊来家一輝さんと歌手の林田麻友子さん（日本コロンビア所属）を招きました。各会場にはこの日を待ちわびた車椅子の入所者やデイサービス等で訪れた方々が開催時間前から待つなど、3日間で延べ650人が集い楽しいひと時を過ごしました。豊来家一輝さんはバチを咥えての土瓶曲しや、4本の刃物を使っての曲芸等思わず息をのむ太神楽曲芸を披露し、盛大な拍手を受けていました。後半は林田さんが登場し、入所のお年寄り誰もがお馴染みのナツメ口曲「アンコ椿は恋の花」でスター

ト。特に子供の頃の思い出深い叙事歌「花」「茶つみ」「もみじ」「焚火」の春夏秋冬の歌では、笛を懐かしむように手拍子を打ちながら、自らも歌い林田さんと共に大合唱となり会場は大きく盛りあがりました。施設の関係者は「ややもすると単調な生活になりがちなので、私達も「秋祭り」や「花火大会」などいろんな催しを企画して生活に変化をもたせていますが、今回のようなプロの演芸会は、入所者の方々にとって大きな喜びで、楽しみになっています」と話していました。

就任ご挨拶



贈り物でんぶれあい福井財団

理事長 加藤 貞治

第35回理事会（9月16日開催）で推举され10月1日から当財団の理事長に就任しました。当財団は地域文化の振興と、ふれあいとゆとりある地域づくりをめざして、地域社会の向上発展に役立ちたいとの願いから、平成9年12月に発足し、今年で12年目を迎える事となりました。

おかげさまで皆様方の温かいご協力とご支援によりまして福井県の文化振興をはじめ、ふれあいとゆとりある地域づくりに、微力ながらお手伝いできる財団として定着し、これまで実績を積み重ねてくることができました。

最近の福井県内の文化振興、活動状況としては、主な事業として、平成15年に「全国高等学校総合文化祭」が、また平成17年には「第20回国民文化祭」が開催され、いずれも

大成功のうちに終える事ができました。福井の文化はこれらの事業を契機に新しい文化環境が着々と整えられつつあります。年内には県より福井の文化の継承と創造をめざした新しい文化振興のための指針「教育・文化ふくい創造会議の提言」（文化テーマ）が出されると聞いています。

財団としても、今後とも県、市町村や文化団体の皆様と連携を密にして、さらなる文化の振興やふれあい活動に力を入れてまいりたいと考えています。

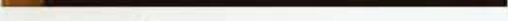
私は福井生まれの一県人として、また福井の発展を願う者として、財団が県民の皆様から親しまれ、信頼されるとともに、地域に根ざした財団運営を行つていきたいと思いますので、一層のご指導とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

小浜市出身の歌人山川登美子の生誕130年を記念し、7月19日「第13回山川登美子記念短歌大会」が、小浜市大手町の小浜市働く婦人の家で開催されました。

また同市千種一丁目の山川登美子記念館では歌碑の除幕式や特別企画展「与謝野晶子展」が併せて開催されました。午前10時から開催された歌碑の除幕式には歌碑の寄贈者で近代文字研究者の塩谷勝氏（岐阜市）や、山川登美子の遺族、「登美子俱楽部しろゆりの会」の会員、関係者50人が出席。塩谷氏、登美子の遺族、松崎小浜市長の3人で歌碑の除幕がなされ、若狭高校3年藤本こころさんが歌を読みあげました。歌碑は白御影石（高さ90cm幅110cm）で登美子の辞世の歌「父君に召されていなむ とこしへの春あたたかき 蓬来のしま」が刻まれています。この歌は登美子の死2日前に詠まれたものとされ、直筆によるもの。松崎小浜市長は「登美子の生家にふさわしい歌、全国の登美子ファンに訪れてほしい」とaidaつしました。

また同記念館では特別企画展「与謝野晶子展」が開かれ晶子の著書を中心に約100点を展示。短歌大会は午後1時より、「登美子俱楽部しろゆりの会」主催で開催され、全国より1342首の応募の中から選ばれた受賞者の表彰式が行われました。

第13回山川登美子記念短歌大会



今野寿美氏の講演

これに先立ち、歌人今野氏による「花もなつかし 月もなつかし 山川登美子が残したもの」と題して講演があり、登美子について「挽歌を詠む為に生まってきたような歌人であり、無情感、喪失感をよく表現している」と評価していました。

会場には約150人の登美子ファンが集い、郷土の大な歌人に思いを馳せた一日でした。



山川登美子の歌碑

おもしろフェスタ in サンドーム福井 2009

ものづくり 楽しいエコ体験



保育園児による演技

た。特に子どもたちのものづくり技術を紹介し、科学の楽しさを感じてもらう体验型イベント「おもしろフェスタ in サンドーム福井 2009」が財團法人県産業会館主催（当財団協賛）で8月8日、9日の2日間サンドーム福井で開催されました。

今年は「かわいいものづくり 楽しいエコ体験」をテーマに、子どもたちに体验を通してエコの取組みを学び、エコ意識を高めてもらうとともに、ものづくりへの関心を深めてもらう企画。学校体验コーナー、エコカーボナー等8つのゾーンに福井工業大学、福井高専、高校、団体、企業など74団体が出展しました。

特に子どもの人気を呼んだのは、福井工業大学、福井高専のブースでのロボット。テレビでお馴染みのロボコンで関心が高く、目を輝かせ、自らもリモコンロボットを操作するなど、科学技術やものづくりの楽しさを体感していました。

『近世若狭湾の海村と地域社会』刊行

岡田孝雄遺稿集

伝統工芸の和紙、漆器、打刃物など実演が行われたほか、ステージでは近くの保育園児による太鼓や、ヨサコイ踊りが披露され花を添えました。2日間で家族訪れ、子どもたちは夏休みなどの宿題のヒントを求め、ものづくりの楽しさを体験していました。

その内容は越前・若狭の浦々の成立の歴史、古来からの漁法や漁業にまつわる各地の紛争・漁業技術の発展の経過等が多くの資料をもとに明らかにされていました。

このほか県内企業によるエコ取組みの紹介や、本邦のこれまでの発表した刊行物を1冊の本にまとめたもので、同研究会では「これからの漁業・漁村研究者が、この本を手掛りとして活用されることを期待したい」としています。



予定。フォーラムでは「アジア地域統合と日本」「世界エネルギー政策と低炭素社会実現への戦略」と題し講演が行われ、満席の370人が熱心に聞き入っていました。

若狭地域での油桐の栽培の歴史を記述する『近世若狭湾の海村と地域社会』

岡田孝雄遺稿集 (A5版 456頁 3千円)



ロボット操作に夢中

APEC エネルギー大臣会合開催記念フォーラム

アジア太平洋地域協力とエネルギー戦略

APECはアジア太平洋地域の21の国・地域が参加する会議で貿易の自由化・経済・技術協力等について各首脳が協議する世界最大の経済協力会議の場。来年11月に横浜で開催される首脳会議に先立ち、エネルギー、財務、観光などの担当大臣会議が開催されます。エネルギー大臣会合が日本で開催されるのは1998年の沖縄県以来の2回目。約600人の各国要人、プレス関係者が来県が企画。

敦賀市は若狭路文化研究会（金田久境会長）は、ばんでんふれあい財団と共に、若狭湾の漁村に注目した「近世若狭湾の海村と地域社会」を6月に発刊しました。

敦賀市の歴史研究家 故・岡田孝雄さんとのこれまでの発表した刊行物を1冊の本にまとめたもので、同研究会では「これからの漁業・漁村研究者が、この本を手掛けりとして活用されることを期待したい」としています。



予定。フォーラムでは「アジア地域統合と日本」「世界エネルギー政策と低炭素社会実現への戦略」と題し講演が行われ、満席の370人が熱心に聞き入っていました。

若狭地域での油桐の栽培の歴史を記述する『近世若狭湾の海村と地域社会』

岡田孝雄遺稿集 (A5版 456頁 3千円)



国際エネルギー機関 田中事務局長の講演



財団 ふれあい通信

平成22年度 財団の助成を受けたい団体を募集 申請期限4月20日(火)

財団では、文化団体等の事業活動を支援するため「財団助成事業取扱規程」に基づいて助成をしています。平成22年度において文化活動等の事業を行うため、財団の助成を受けたい団体を募集しています。

対象団体の要件

1. 福井県内に活動の本拠を置く団体
2. 構成員（会員）が原則として20名以上の団体
3. 平成21年4月現在で、原則として設立後2年を経過している団体
4. 営利を目的とせず、明確な会計経理を実施、報告できる団体
5. 特定の政治団体、宗教団体、企業に所属していない団体

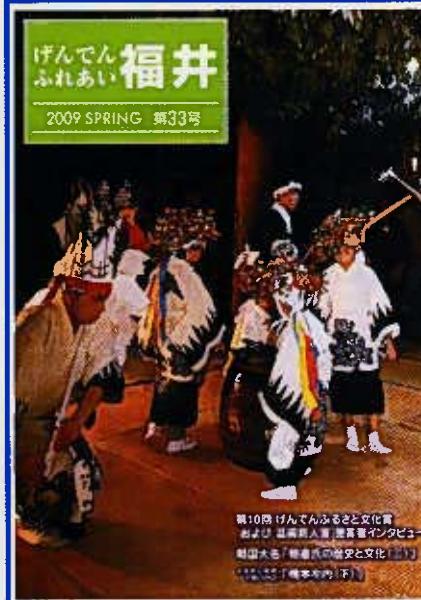
応募の方法

- 財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を平成22年4月20日(火)まで（申請事業の実施が4・5・6月の場合は3月20日まで）に当財団に提出してください。
- 申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等がありますので、詳しいことは「げんでんふれあい福井財団」にお問合せ下さい。

読者アンケートご回答のまとめ

げんでん ふれあい 福井 第33号

本誌第33号（平成21年3月発行）のアンケートに総数30通のご回答をいただきありがとうございました。その結果を下表のとおりまとめました。今後も、皆様のご意見をうけたまわり本誌の充実に努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。



第33号で良かった記事

- | | |
|----------------------------------|-----|
| ○第10回げんでんふるさと文化賞及び芸術新人賞受賞者インタビュー | 11名 |
| ○戦国大名「朝倉氏の歴史と文化(三)」 | 16名 |
| ○ふるさと福井・人物シリーズ「橋本左内(下)」 | 17名 |
| ○第11回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品 | 11名 |
| ○ふくいの伝統行事シリーズ「柴の実入れ」 | 10名 |
| ○敦賀市立博物館誌上ギャラリー/27 美人詠花之図一幅 | 6名 |
| ○福井の文学碑「国語学者 橋本進吉」 | 13名 |
| ○第11回能を楽しむ会 | 2名 |
| ○第2回ふくいふるさとの祭り 開催 | 6名 |
| ○情報ファイル | 6名 |

本誌へのご意見・ご要望

- 表紙の写真がふるさとのイメージが満ち溢れて最高です。
- 文化賞・新人賞は文化を受け継いでいく為にも素晴らしい。
- 写真大賞の作品は、雄島の波と対比して生き生きと鯉のぼりのりしさが見事で大変ひきつけられた。
- 第60回植樹祭へ出席したが、31号の記事を読んだお陰で、事前に知識をいただき感謝しています。
- 福井県内の民謡を取り上げてほしい。
- 財団の地域貢献には感謝している。より住民に密着した活動のため交流の場づくりにもご努力してください。
- 地域の人に優しい親しみのある財団なので、心に残るものがあります。
- 文化の振興に尽力いただいており、大変ありがとうございます。
- 福井県の文化財団という視点を大切に、県民から期待される活動を積み上げて行って欲しい。

財団イベント INFORMATION

日英小学生絵画交流展	敦賀市内の5小学校とイギリス・セラフィールド地区の5小学校の児童絵画を展示	12/5(土)~12/13(日)	敦賀原子力館	敦賀市明神町
		12/15(火)~12/28(月)	げんでんふれあいギャラリー	敦賀市本町
第12回ふるさと大賞写真コンテスト入賞作品展	ふるさと大賞および入賞作品を展示	平成22年 2/2(火)~2/14(日)	げんでんふれあいギャラリー	敦賀市本町
		平成22年 2/19(金)~2/24(水)	ショッピングセンター「ベル」	福井市花堂
文化講演会	講師 本村健太郎	平成22年 2/7(日)	小浜市文化会館	小浜市連合婦人会と財団共催
		平成22年 2/22(日)	県立音楽堂	福井県文化振興事業団主催 財団協賛
平成21年度福井県新人演奏会	公開オーディション	平成22年 3/21(日)		
	新人演奏会	平成22年 3/20(土)	敦賀市民文化センター	財団主催 入場料 1,000円
米村でんじろう サイエンスショー	米村でんじろう 他			